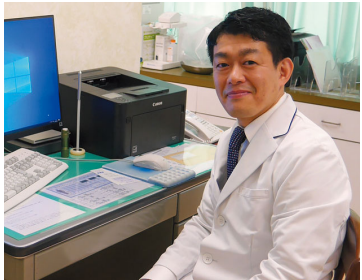


# 連携医院のご紹介

今回は、頭痛やめまいなどの脳神経の専門領域から一般内科まで地域の皆様のお悩みに寄り添った診療を行なわれている安芸区矢野の「向井内科・脳神経内科」の向井智哉院長にお話を伺いました。



向井院長

## 向井内科・脳神経内科

〒736-0085  
広島市安芸区矢野西一丁目28-23  
電話/082-888-1110  
院長/向井 智哉  
診療科目/内科・脳神経内科



向井内科・脳神経内科外観

### ○いつ開業されましたか。

昭和54年に開院した向井麻酔科外科医院を継承、令和2年4月1日にリニューアル開院しました。

### ○開業されてから今までのことを教えてください。

苦労することもありましたが、スタッフにも恵まれて、日々患者さんからたくさんのご意見を学ばせていただいています。

### ○力を入れている事などを教えてください。

脳神経内科の特徴を生かした、頭痛・認知症・パーキンソン病などの診療です。片頭痛でお悩みの方が多く、こどもさんからお年寄りまで沢山の診療にあたっています。専門性を活かしつつ、内科医として幅広い診療を心がけています。

### ○毎日の診察で大切にされている事はありますか？

丁寧に診療することです。患者さんにとっての症状は、「軽い・重い」と決められるものではありません。よくお話を聞くように心がけています。また診断をする時には、自問自答しながら慎重に診療していくことが大切だと思っています。

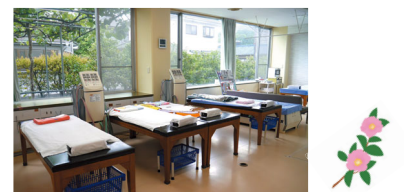
### ○県病院はどんなところですか。

開業前は県病院に勤務し、色々なことを教えていただいた病

院です。思い入れがあり感謝しています。患者さんには様々な症状があり、総合病院の受診を希望された際にお世話になっていました。KB ネットも参加させていただいており、紹介した患者さんの状態を知ることができるので、非常に助かっています。今後ともよろしくお願いいたします。

### ○その他記事にしてほしいことなど

当院はMRI機器を導入しております。現在の脳の健康状態を調べたり、脳の病気の早期発見に有用な検査です。脳ドックを受けられることをおすすめしています。



窓の外にはクワイ、いちじく、ライムなどの果樹が広がります。春は芝桜、冬はサザンカが咲きます。

### 【取材後記】

院長先生が丁寧に丁寧に対応してくださり、普段患者さんと接するときも、丁寧に診療をされている姿が目に見えました。大きな窓から見える木々が素敵で癒し空間でした。

## 県立広島病院からのお知らせ

### 9月のがんサロン

- 開催日 令和3年 9月22日(水)
- 時間 14:00~15:00
- 参加方法 オンライン形式 ※申し込みが必要です
- テーマ がんの治療に使う薬 外見のケア
- 講師 がん化学療法看護認定看護師/迎川 ゆき 美容院こもれび/難波 美恵子 さん
- 対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族 当院での受診歴は問いません
- 問合せ先 がん相談支援センター ☎082-256-3561(担当/定元)
- 申込専用 hphchiikirenkei@pref.hiroshima.lg.jp

**TV放映** 当院入院中の方は当院テレビ(健康放送/12ch)でご覧いただけます。

### 院内七夕コンサートをTV中継で放映しました!



令和3年7月7日(水)に院内七夕コンサートを開催いたしました。新型コロナウイルス感染症対策として、観客なしでプロテウスアンサンブルの演奏を、患者さんに院内テレビで視聴して頂きました。

# もみじ



県立広島病院 ☎(082)254-1818(代)  
〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします

循環器内科

教えて

Dr. 50

専門診療医による得意治療を紹介いたします。

## こわい心房細動を自分で見つけよう!!



循環器内科 部長 三浦 史晴

### ◆遠隔診療(遠隔モニタリング)とは

最近では、病院に行かずに、自分の健康状態を管理すること、自宅に居ながら、病院での診察と同じような診察を受ける遠隔診療が進められています。

当院では、ペースメーカーやICD(植え込み型除細動器/AEDと同じような機能を搭載したペースメーカー)、CRT(心臓再同期療法/心不全治療を行うペースメーカー)の植え込みを行っている患者さんを対象に、できる限り、遠隔診療を導入するようにしております。このような遠隔モニタリングを利用することで、患者さんに安心して生活してもらう様に心がけています。これらの機器で早期発見できるのが、一番に心房細動です。

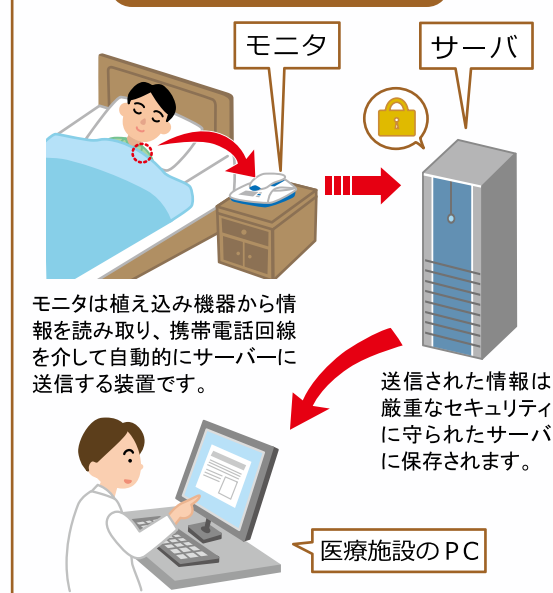
### ◆心房細動について

心房細動は脳卒中、心筋梗塞、心不全、および死亡に結びつく病気と言われており、早期に発見して、早期に治療をすれば、根治できる不整脈と言われています。

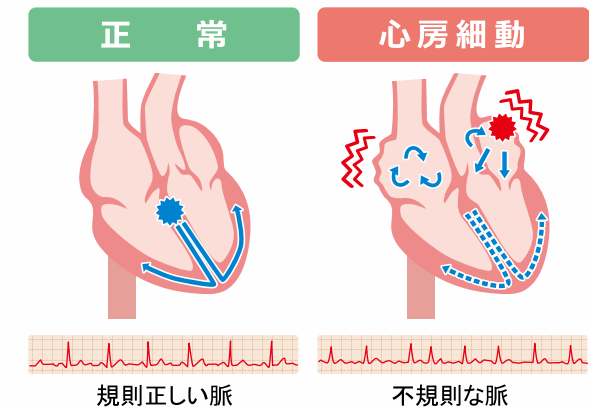
しかし、早期に発見するには、どうしたらいいのでしょうか？

まず思うのは心房細動は、不整脈のうちの一つですので、ドキドキしたり、なにか症状があるのではないかと心配されています。しかし、多くの患者さんは、症状がありません。(京都の伏見区での研究でも52.6%の人は無症状でした)ですから、症状があったら、病院に行くというのでは早期発見できません。実際に、テレビのニュースでも「突然、元気だった人が脳梗塞で入院されました」という報道を時々、見られると思います。そうなる前に診断し、治療することが重要になります。

### 遠隔診療イメージ



担当医や医療スタッフが、パソコンからインターネットを通じて、植え込み機器の情報を確認します。必要であれば直接患者さんに連絡し、来院してもらいます。



早期発見の重要性については「もみじ 91号」にて紹介いたしました。当院HPでもご参照いただけます。  
●教えてドクター「不整脈の治療」  
<https://www.hph.pref.hiroshima.jp/topics/fuseimyaku.html>

次頁に続きます

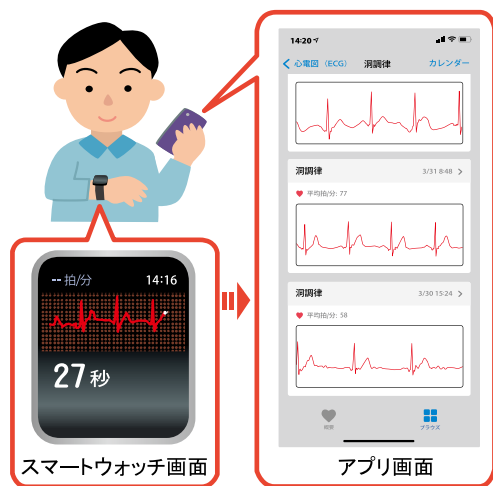
### ◆もっとも新しいセルフチェック

前回「不整脈の治療」で自己検脈、血圧計を用いたもの、携帯心電計を用いたものを紹介させていただきました。最近、スマートウォッチを使ったセルフチェックが活用されるようになってきました。

スマートウォッチとそのアプリを活用したモニタリングで、スマートウォッチの不整脈通知の陽性的中率（スマートウォッチで、心房細動と通知された人で、実際に心電図パッチで確認された不整脈が心房細動であった割合）は84%でした。その精度の高さから、現在日本でも使用可能になっております。

しかし、スマートウォッチでの診断は100%ではないため、心房細動であることを医療機器で確認する必要があり、当院では、2週間連続記録可能なホルター心電図を使用して、心房細動の検出を積極的に行い、治療へと結びつけ、治療後の効果判定にも使用しております。

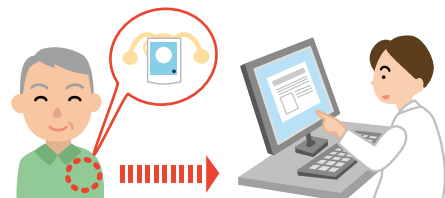
#### スマートウォッチとアプリを活用して心電図を記録



このようなスマートウォッチを使用し、不整脈が検出されたり、異常があれば、ぜひ、当院循環器内科を受診して、本当に異常かどうか、チェックしていきましょう。



パッチ型の長時間心電図レコーダ / フクダ電子株式会社



24時間、心電図を確認できます

### ◆植込み機器で心房細動をチェック

その他に、脳ドックなどで、心臓からの塞栓（心臓の中にある血液の塊が、脳の血管に詰まる）が見つかり、心房細動が疑われた場合には、胸のマイクロチップのようなものを植え込んで、心房細動を見つける機器も積極的に行っております。これは、ICM（植込み型心電計）といい、外来で処置が可能です。電池寿命も3～4年あり、遠隔モニタリングでの確認も可能で、もちろんMR撮影も問題ありません。



植込み型心臓ペースメーカ / バイオロニックジャパン株式会社

#### 不整脈疾患外来 火・木曜日の午前

受診の際は、かかりつけ医から予約の上、紹介状を持参して下さい。

# 外科医の独り言...no.119

## ー ウソも方便 ー

この原稿を書いている今、COVID-19の感染拡大の再来（第5波）と災害級の大雨のダブルパンチが西日本を中心に全国を襲っています。大雨に関しては、その根源は地球温暖化でしょうか、100年に1度の天災に毎年襲われており、個人的な努力でどうにかなるものではありません。一方で、COVID-19感染の第5波も、私たちの生活への影響はもはや災害ですが、決して天災ではありません。少なくともさらなる感染拡大の回避の方策はあるはずであり、ワクチン接種の普及はその鍵を握っているはず。

ワクチンについては色々と言われていますが、わが国では少なくとも今年中には接種希望者全員に行き渡るようです。しかし、ワクチン接種をためらう人が、若い人を中心に増えていることが問題視されています。ワクチン接種に伴う発熱、疼痛などの副反応に対する不安や、ひょっとすると死ぬかもしれないという恐怖と、自分は若いから感染しても死ぬことはないという楽観的な憶測が相まってワクチンを打ちたくないという判断になっているのだと思います。

つい最近、厚労省は、接種と死亡の因果関係の有無は別として、ワクチン接種後に亡くなった方は919人であると報告しましたが、そのほとんどはワクチン接種と死亡との因果関係は情報不足等により評価できないとしています。また高齢者に先行接種が行われた関係上、死亡例のほとんどは高齢者ですが、20歳代の死亡例も6例報告されています。一方、これまでCOVID-19感染症で亡くなった20歳代の患者さんは、私が調べた範囲内では、全国で3例報告されています。私が知っている事実はここまでですが、ワクチン接種と死亡の間に因果関係がないと証明することはとても難しいことであり、ワクチン接種の安全性を100%担保できないのも事実です。

若い人がワクチン接種を嫌がっているのは、SNSで発信されるいわゆるデマの影響も大きいと言われています。どのようなデマがSNS上で拡散しているか皆さんご存じですか？最も有名なのは、「新型コロナワクチンを接種すると、体に磁石がくっつくようになる」だそうです。確かに体に磁石が付くとビックリしますが、私からすると、命に別条はなく別にどうでもよいことではないかと思ってしまう。また、ありえないことですが、若い人を怖がらせるには十分なデマとして「マイクロチップが入っていて政府に行動を監視される」とか「体内にワクチンの成分が残り、政府に都合がよいように遺伝情報が書き換えられる」があるそうです。これらのデマは、ワクチンを打たせたくないと思っている人たちあるいは組織？によって意図的に拡散されているのだと勝手に思っていますが、冷静さを失うほど不安になっている人にとっては、とても信じられないような嘘でも信じてしまう可能性は大いにあります。

そこで私は、1人でも多くの若者にワクチンを接種してもらうために、正義のデマを流すことを思いつきました。例えば「ワクチンを接種すると、お金が体にくっつくようになる」とか、「マイクロチップが身体に入って、好きな人の行動が手に取るようにわかるようになる」というのはどうでしょうか？「嘘も方便」ということわざもあります。しかしこのことわざは、お釈迦さまが人々を良い方向へ導かれるために使われた手段としての良い嘘だそうです。したがって、「嘘も方便」と言って私が勝手にデマを流すことは許されていません。そしてもっと残念なことは、私がデマを拡散させる術（すべ）であるフェイスブックやインスタグラムの未経験者であることでした。



院長 / 坂本 敏行

## 脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長 / 上田 浩徳

### 鎖骨下動脈閉塞症に対するバイパス術

【心臓血管外科 / 小澤 優】

鎖骨下動脈盗血症候群とは鎖骨下動脈（大動脈から上肢に行く動脈）の椎骨動脈分岐部より近位部に高度狭窄又は閉塞があり、患側上肢の運動に際して、逆向性に椎骨動脈から上肢へ血流が流れるために脳底動脈循環不全の症状が生じる病態のことです。上肢の虚血症状（腕しびれや手首の脈が触れない等）に加えて、上肢の運動時に頭痛、めまい、眼前暗黒感等の脳虚血症状が出現します。原因は大部分が動脈硬化による血管の狭窄や閉塞です。軽度の上肢虚血症状のみの場合は抗血小板薬等による保存的加療を行います。症状が強い場合にはカテーテル治療による血行再建を行います。完全閉塞ではバイパス手術の適応となる場合があり、当院でも外科的血行再建を行っています。

### 体外循環式心肺蘇生について

【循環器内科 / 松井 翔吾】

体外循環式心肺蘇生(Extracorporeal Cardiopulmonary Resuscitation: ECPR)とは心拍再開困難な心肺停止症例に対して経皮的な心肺補助装置(Percutaneous Cardiopulmonary Support: PCPS)を用いた積極的な心肺蘇生を行うことです。PCPSという言葉は日本ではポピュラーに用いられていますが、現在はECMO(Extracorporeal Membrane Oxygenation)が世界標準用語となっています。すなわち、呼吸不全のサポートとしての、静脈系(V)から脱血し酸素化した後、静脈系(V)に送血するVV ECMO(心臓のポンプ機能はサポートしません)に対して、静脈系(V)から脱血し酸素化した後、動脈系(A)に送血するVA ECMOは心臓のポンプ機能不全と重症呼吸不全の両方をサポートします。院外心停止に対してECPRを行った症例では神経学的予後が良好であったとの報告がされています。そのためには心停止からいかに早くVA ECMOを導入してECPRを行うかが重要となります。当院では心停止から45～60分以内、来院後20分以内のVA ECMO導入を目標として、ECPRを迅速に行えるよう、各部署の体制を構築しています。

## 当院スタッフが出前講座をいたします！

当院では地域に貢献する取り組みとして、病気に対する最新の知識を理解して頂くために、地域巡回講演会を開催しています。講演会は行政・医師や医療関係者、自治会、民間企業、学校などの依頼により各地域へ出向いています。

令和3年7月13日に東区地域福祉センターにて「with コロナ時代」をテーマに総合診療科・感染症科の長坂医師を講師として派遣いたしました。新型コロナウイルス感染症の流行拡大により開催が中止となる場合がありますが、これからも皆様のご参加をお待ちしております。



生活習慣病やがんなどの講座もあります